

アサヒビール西宮工場跡地の開発計画について

計画の概要が発表されました。

■ 計画の概要

9月議会において市は、昨年8月末に閉鎖されたアサヒビール西宮工場跡地約10ヘクタールの購入価格、利用方法、取得手順・スケジュール等を示す開発計画を発表しました。これを受けて今後、議会での審議が行われます。

報告によると工場跡地の購入価格は68.8億円、整備主体・利用方法と、それぞれの面積は

- 市が購入し、病院、体育館、消防署、多目的・防災公園等を整備(約3.8ヘクタール)
- 民間事業者が購入するが、利用方法は未定(約5ヘクタール)
- 民間事業者が道路として整備した上で、市に無償提供(約1.2ヘクタール)

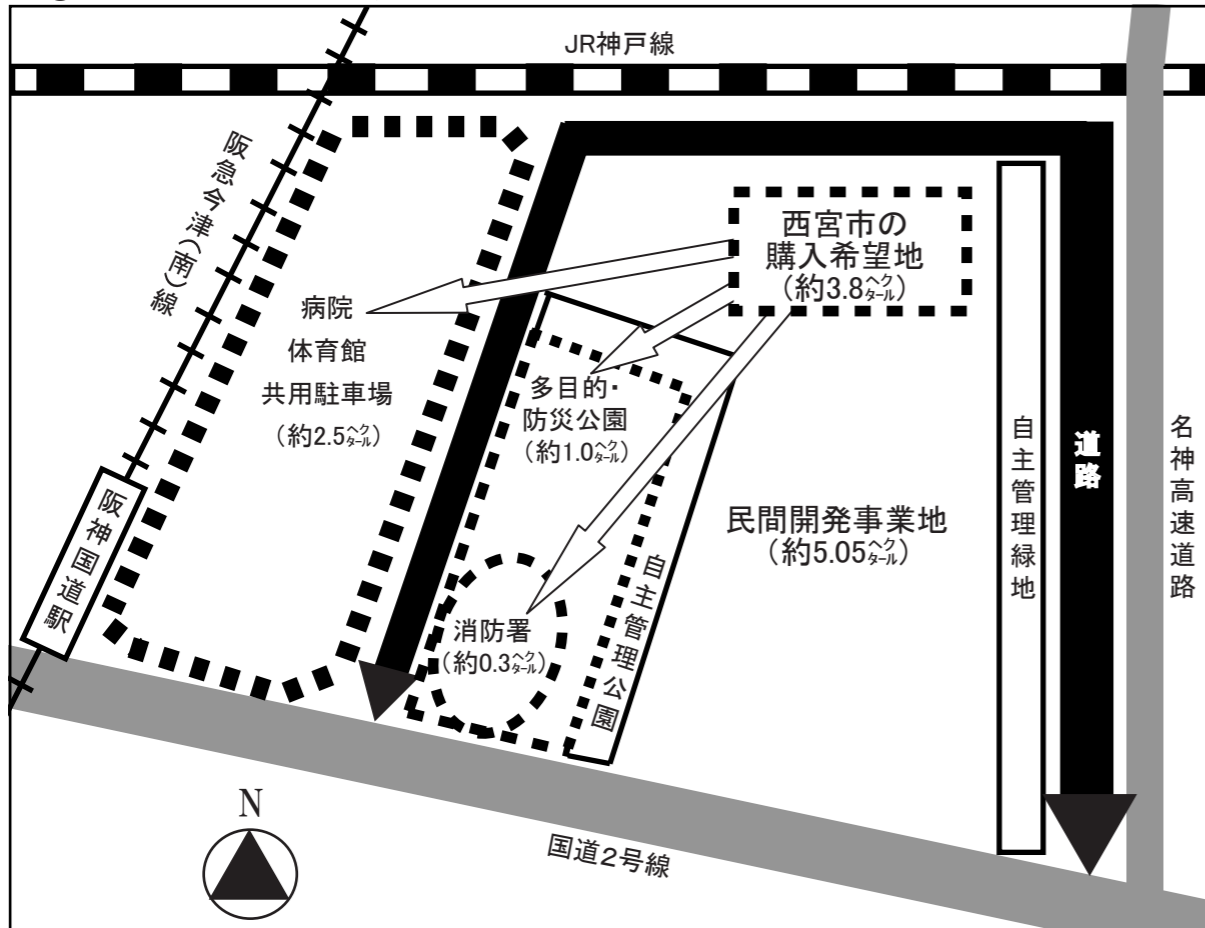
となっています(図①参照)。

■ 慎重に検討するべきです

市は津波が発生した場合、JR神戸線以南は浸水する可能性が高いとしています。このような地域に防災公園・消防署等を設置する計画には無理があります。また病院の移転・新築については医療機能・採算性等の問題もあり、一層慎重に検討するべきです(関連記事・右面)。

9月議会で示された内容は、市が「土地を購入して、これらの施設を整備したい」という意思を表明したに過ぎません。土地購入も施設整備も決定事項ではないのです。厳しい財政状況の中、総事業費200億円以上と予想される巨大プロジェクトを拙速に推進するべきではありません。引き続き、今後の展開を注視すると共に、指摘・提言を続けてまいります。

図①:アサヒビール西宮工場跡地の開発計画



西宮市立中央病院の移転・新築について

「病院の移転・新築」自体が目的ではありません。

■ 黒字化は可能ですか？

9月議会において、西宮市立中央病院(以下、中央病院)のアサヒビール西宮工場跡地への移転を前提とした基本計画が発表されました。市は、移転後の中央病院(以下、新病院)について「癌診療機能を重点化」し、「経営の黒字化を実現する」としています。しかしながら私は、

- 市が想定する新病院の病床稼働率は開院1~2年目75%、3年目80%、4年目以降85%と現在の病床稼働率73.7%と比べて大幅に高い(※)。
- 当初88.6億円とされた事業費が一年半後には121.6億円まで増加。今後も事業費は増加する可能性が高い。
- 中央病院は数度に亘る経営改善の取組みにも関わらず、毎年20億円近い市の税金投入が必要という経営状況にある。このような病院が、移転・新築によって安定的な黒字経営になるという考え自体に無理がある。

等の理由から、新病院の黒字化はきわめて困難だと考えています。

※兵庫県下で病床稼働率85%以上を達成している公立病院は約6%のみ(2010年度実績)。

■ 重要なのは医療環境の向上です

病院経営の黒字化に向けた取組みは当然、必要です。しかしながら**公立病院の最大の役割は黒字確保ではなく、採算性等の面から民間医療機関では対応困難な医療機能を提供することです。**こうした観点に立つと、新病院は

- 24時間・365日対応可能な小児救急機能
- 眼科・耳鼻咽喉科の夜間・休日診療機能
- 出産可能な産科機能

等を担うべきですが、中央病院同様、新病院もこれらの機能を持ちません。市が目指すべきは「市全体の医療環境向上」であり、「新病院の建設」自体が目的ではありません。引き続き、今後の展開を注視すると共に、指摘・提言を続けてまいります。

高木地区の新設小学校について

9月議会で明らかにされた内容をご報告します。

■ 報告の概要

9月議会において、2016年4月の開校に向けて準備が進められている高木地区の新設小学校(以下、新設校)に関する報告を受けました。主な内容は以下の通りです。

- 校区は野間町・林田町・伏原町・薬師町の4町とする(図②参照)。
- 開校時に新設校区内に居住する児童は全員、新設校の生徒になる。
- 新設校開校に伴い、高木小学校に教室の余裕が見込まれるため、隣接校区の一部を高木小学校校区に編入することを検討する。

引き続き、情報の収集と広報に努めてまいります。

図②:高木小学校区周辺の位置図



※実線は現在の高木小学校区、■は新設校区